

都立病院 児童・思春期精神科医師の 利益相反を突く！

●患者急増の精神科医療の今を追う

はじめは条例審査

それは危険ドラッグ対策調査がきっかけでした。「どのくらい死亡してるのか？」と東京都監察医務院*の研究資料を入手したところ、異常死からの薬物検出が危険ドラッグ9件に対して、**783件!**という驚くべき数の「医薬品」(精神神経用剤薬、睡眠導入剤薬、抗てんかん剤、解熱鎮痛消炎剤等)が検出されていることに、私は大きな衝撃を受けたのです。この中に子どもは入っていないのか?大変気になり福永龍繁院長から「内訳は、自殺も含まれ、睡眠剤、抗不安薬との併用で死に至るパターンも。子どもの向精神薬で致死例はまだ無い」との説明を受けました。

※東京都監察医務院

東京都 23 区において死因がわからず急に亡くなった方々や事故などで亡くなった方々の死因を明らかにしています。また、これらの過程で得られた貴重な情報は、公衆衛生、医学、司法などの領域で役立てられています。(HPより)



シミーズ 昭和の女児用肌着

都立松沢病院、死亡退院の実態

精神科病院都立松沢病院の死亡退院数は毎年80~90件を推移しています。60歳以下に絞ると平均15人で、2014年には10代が2人死亡。最多死因は「呼吸器」の36%となっており、日本人の死亡原因1位が癌(3割)であることを鑑みれば過量服薬(オーバードーズ)が疑われる違和感を否めない実態を、決算審査で明らかにすると同時に、発達障がい医療、特にADHDの症状に対し子どもへの「早期介入」に名を借りた安易な向精神薬投与に警鐘を鳴らし、都から「**投薬以外の治療を最優先にする**」との答弁を取り付けました。また、政府は、国連・子どもの権利委員会勧告により「**薬品産業から独立してこの領域における研究が実行されることを確保する**」ことを求められております。

製薬会社からの報酬、真相究明

そこで、続く一般質問では都立小児医療総合センターの児童・思春期精神科I顧問医師が、向精神薬製薬会社から講師料等の名目で少なくとも**300万円**以上を受け取っていることを究明し「利益相反」にあたることを指摘、当初は否定した都も、揺るがぬ

「あらゆる権力を排して白紙で向かう」
「ひが持論の福永龍繁東京院長
エコノミクス症候群因子を
発見したのは監察医務院です!



証拠に手順違反を認めるに至りました。昨年、厚労省は製薬企業等からの定期的報酬で、薬食審薬事分科会関連委員8人に辞任要請するという厳しい措置を講じています。当該医師は発達障がいの専門家として著名であることから、都においても厳正なる対応を求めると同時に徹底追及をしていく所存です。

「ひと薬」の時代へ

いつの時代も個性が豊かで、教室でじっとしていられない子どもがいたと思います。こうした子ども達を厄介者扱いし、教育現場が安易に精神科医療に結びつけるようなことはないかについても懸念しています。幸い、すでに気付き始めた自治体もあり、調布市では、いじめ相談のパンフから都立小児医療総合センターを削除しました。

厚労省大規模調査によれば、高齢者への多剤多量投与副作用で最も多かったのはベンゾジアゼピン系の睡眠薬・抗不安薬であったと指摘されています。薬に頼りきる前に、信頼できる「ひと」…薬の効果と副作用を熟知した医師、プロ意識を持つ薬剤師(←間違った処方医師がした場合は薬剤師法24条により疑義照会ができる強い味方)、心ある教師、ご近所といった、「ひと薬」に頼れる地域社会とするため、引き続き都議の質問権をフル活用し、解明をすすめてまいります。

都議会-NEWS

東京都の今をお届けする、都議会議員・上田令子の東京都政報告です。

Renaissance & Revolution >>> r&r vol.14

上田令子 検索



東京都議会会派

かがやけ
Tokyo

うえだれいこ
プロフィール

台東区立黒門小、文京区立第六中、都立三田高、白百合女子大文学部卒。外資系生保等数社を経て起業も。結婚を機に江戸川区の夫実家にて3世代同居。2007~12年江戸川区議会議員、2013年東京都議会議員初当選。現在、警察消防委員会(理事)、オリンピック・パラリンピック等推進対策特別委員会。

2 015年度の上田の質問数は以下の通りとなりました。

第1回&第4回定例会一般質問(本会議場での質問)	38 問
文書質問(年4回の定例会ごとにできる文書での質問)	158 問
総務委員会(所属常任委員会での質問)	132 問
平成26年度公営企業会計決算特別委員会	97 問
オリンピック・パラリンピック等推進対策特別委員会(所属特別委員会での質問)	14 問
合計	439 問

2013年当選以降合計数 746 問!

都政戦後70年。歴代の江戸川区選出の都議会議員は勿論、全議員において前人未到の記録的質問数を毎月更新しています。それでも都庁13兆円の伏魔殿。調べれば調べるほど、炙りだされる都庁の光と影。光はより輝くよう、一番暗い闇には根気強く一隅を灯していくことで全体を明るく風通しを良くしております。質問のきっかけの多くは地域住民からもたらされた生の情報やご相談から。今後も、引き続き行政法に則り、議事録の残る場で証拠・論拠のある切り口で迫り巨大都庁行政を動かしてまいります!



行き当たり/バッタリだよ、東京都庁!?

オリパラ・豊洲新市場・ハレンチ職員…上田令子が一気に一喝!

「都有地」を国に上納!? 都民財産タダ貸しに迫る

「2500億円!? しかも、エイリアンの卵みたいなあのデザイン!? ありえない!」と都民発の社会現象となり、白紙撤回となった新国立競技場。日本人はお人よしなので「デザイン変更もして1581億円になって、都負担も500億から395億(周辺設備を入れると432億!)にコスト圧縮になったから、まいった」となりがちですが、聖火台の設計モレが指摘されたことから、決して油断してはなりません。奇しくも昨年12月より上田は、オリパラ等推進対策特別委員に就任。早速あがってきたのは「**都有地を国に無償貸与**」の報告。つまり、負担分のキャッシュ(皆さんの税金です!)を土地(皆さんの財産です!!)をタダ貸しすることで差額分を埋めるのでは?としか考えられないもの。「無償貸与の想定金額は?」と問えば「**使途も範囲も未定だから答えられない**」という始末。都民財産の取り扱いには慎重に慎重を極めないとなりません。なぜなら、かつて豊洲新市場用地を公益企業から購入したにも関わらず有害物質が検出され、土壌汚染対策に500億円を超える税金が投じられた苦い経験もあるからです。喉元過ぎても熱さは絶対忘れない上田は、想定なきタダ貸しを絶対に許しません。



【総括】都の財産(土地・建物・道路…etc)は、すべて都民のもです。都知事のものでも都庁官僚のものでも、ましてや当該施設や用地のある地元議員のものでもありません!もちろん、国の尻拭いのために上納するものでもございません!

都職員不祥事続発! なのに税収あがれば真っ先に職員給与アップ

2016年度一般会計予算は、23年ぶりに7兆円を超えるものとなりました。税収増を見込んで真っ先にやったことは、昨年に引き続いて総額101億円の都職員の給与アップ。昨年末から、児童の裸を撮影した三鷹の小学校教諭の逮捕、盗撮35回の総務局課長停職6カ月、警視庁巡査部長が「抵



「地域課題を解決したい」「ここがヘンだよ東京都!」
「r&rに書いてあることを相談したい」etc....

都議会-NEWS 2016

発行人/東京都議会議員(江戸川区選出) 上田令子

〒132-0033 東京都江戸川区東小松川4-57-12 Tel&Fax:03-5678-4707 Mail:ueda@ueda-reiko.com

皆様の声
をお寄せ下さい!

抗したら殺す」と脅し女子高生を暴行し逮捕、石巻市に派遣中の都職員が、酔って飲食店従業員に暴行し被災地にて逮捕、職員の不祥事を調査する総務局行政監察室の監察員（部長職）が痴漢容疑で逮捕、路上で女性の体を触った疑いで都営地下鉄運転士逮捕…と不祥事がたて続けに発生する中、給与引き上げ議案を上げてくるのは信じられない感覚であります。中小零細企業が多い我が国において、中堅以上の民間企業と比較しての人事委員会の引き上げ勧告の妥当性は極めて理解不能。「一強多弱のアベノミクス」と闘うはずの共産党、民主党、維新の党、生活者ネットは易々と賛成に回りました。一体誰の味方なのでしょう。当然、上田の所属会派「かがやけ Tokyo」は疑義を質し、都議の報酬アップも含め反対しました。

【総括】 保育園待機児童、教育、医療・介護、防災対策は待ったなし。収増の今こそ、どんぶり勘定をやめ厳しいコスト意識を持ち、起債という借金を戒め起債残高（＝借金残高）を減らして、不要不急の行政事業・人員を減らし、予算額増には慎重になるべし！

天下り指定席健在の中、自殺者も。組織風土は大丈夫！？

外務省御用達天下りポスト「外務長」に、またしても元外務大臣官房参事官が就任。本年度も局長クラスは外郭団体役職ポストへ華々しく再就職を決める一方で、過去5年の間に、二桁台の職員が自殺してます。上田は委員会質問、文書質問にて、地方公務員法第28条に基づく分限処分の行使（平たく言うと改善努力をせぬ職員はクビ!）を求め、一方で住民最優先に真摯に働く職員には、適正な評価を要請。過労死ラインの残業禁止と権威主義的な上司と多忙な部下の狭間で悩みを抱え込む中間管理職のメンタルヘルスケアも強く求めています。

【総括】 自殺もハラスメントも個人の問題にすりかえて、矮小化せず頑張る職員を徹底サポート！悩める善良なる都職員の皆様は、追い詰められる前に上田令子までご一報を！秘密保持は厳守します。

11月7日開場の豊洲新市場 ホントに「千客万来」となるのか!？

鳴り物入り商業施設のまさかの出店辞退。結局どうなったかと申せば「すしざんまいが撤退した6街区の再公募が決まってから塩漬けになってる5街区のことは考えま〜す!」という非常識なお役所「開発」に。経済的・肉体的体力が大丈夫か?!と懸念していた水産仲卸業者も案の定、築地からの移転叶わず69社も廃業へ。委員会でさんざん指摘していたのに…だから言わんこっちゃない！



豊洲市場イメージ写真（東京都中央卸市場 HP より）

【総括】 1986年に始まったパプルの遺産「臨海副都心構想」は結局場当たりの妄想に!?!…シビアナ再検証と思い切った英断を！

代金払って備蓄せず!？災害用ガソリン問題 上田指摘で、あっさり白旗

首都直下型地震に備え3億で購入した災害時燃料が、実際は契約していたガソリンスタンドに備蓄されていなかった実態を独自調査の上、総務委員会徹底追及。舛添知事自ら「大変ゆゆしき問題だ。抜本的に見直す」と宣言、改善に至りました。

【総括】 情報公開請求したところ、事業者へ燃料を備蓄並びに管理について都からの説明はたった一回だったことが判明。商売に忙しい事業者には、きめ細かい対応が必要。脱・上から目線！

生活保護者精神科クリニック囲い込み事件 江戸川区からは39名！

特定の医療法人が、生活保護受給者である精神疾患患者をシェアハウスに居住させ、自らのクリニックに囲い込み報道となった事件。この法人は江戸川区へ随意契約で相談員を派遣。クリニックに斡旋された人は、都内最多でなんと39名。情報を入手した上田は、区と都に確認をしたところ「事実無根」との回答をするも、後に厚労大臣が「東京都へ適正な指導を求める」異例の記者会見に。決算&第四回定例会にて上田は更に核心に迫り、都による江戸川区への特別指導検査並びに、適正な転居指導を行う勧告を実現させました。

【総括】 行き場を失った人を「精神医療」に囲い込み、デイクアー日1万円×700人＝毎日700万円！区からは1700万円の派遣料収入。都の自立支援医療総額270億円の割に相当する29億円の収益をこの法人は計上、コレほとんど税金!!行政ぐるみといえなくもない闇の医療スキームに今後も斬り込みます。

知的障がい者施設「たんぽぽ」虐待事件 とうとう理事長交代に！

2013年6月のテレビ報道で明らかになった、西東京市の知的障がい者入所施設「たんぽぽ」の虐待問題。本会議、委員会、文書質問で切れ目なく厳正な対応を求め続け、新規利用者の受け入れ停止処分、西東京市との合同実地検査を実施させ、ようやく長期にわたり虐待を看過していた理事長を交代するに至らしめました。現在は豊富な知識と経験を有する施設長が配置され、第三者委員会の委員を新理事に追加するなど、役員体制の刷新が図られています。

【総括】 再三再四にわたる利用者からの苦情相談、02年の改善申し入れから13年。上田が追及するまでの都議会、西東京市議会、ことに確かな野党は何をしていたのか!?!と言いたい。まっとうな地方議員が一人でも議会にいれば、行政を動かせるという後に続く議員並びに障がい者虐待防止の生きた好事例となりました。

質疑の積み重ねが政策実現に結びつき「部活・体育安全対策」実施へ

江戸川区議時代から我ながら「これでもか、これでもか」と教育委員会のあり方を質し、都議となり、いよいよ本丸東京都教育委員会へ。議事録の残る場で詰め将棋のように一つ一つ追いついて、組体操・巨大ピラミッドでの全国的な事故発生もあいまってようやく、都教委の重い腰を上げさせるに至りました。

【総括】 今後も子どもの自殺の原因となる部活の体罰・イジメ・スクールセクハラを厳しくチェック。東日本大震災から5年、戦後最悪の学校災害石巻市立大川小学校の事例にも学び、子どもの心身の健康を守ります！子ども達も保護者の皆様も学校での困りごとは上田まで直接連絡を！秘密保持は厳守します。

悲願達成！江戸川区認証保育所の保護者負担軽減補助を実現

東京23区の財源は「財政調整交付金」という形で都から配分されます。その用途は各区に委ねられており、江戸川区は唯一保護者負担を実施せず、区議時代からこれまで私も強く求め、ようやく2016年度より所得に応じ1.5万～2.5万円保育料補助を実現するに至りました。江戸川区は、未だに区立保育園でゼロ歳児保育を実施していないことから、認可園よりも保育料の高い認証保育所への補助は、貧困にあえぐシングルマザーには何よりの吉報。上田がマタハラで会社を辞めた時、お腹にいた長男は大学4年。待機児童解消等保育問題と女性の社会進出をめぐる、私達の長い長い闘いはまだ続きます。



【総括】 保育施策は、福祉というよりも未来への投資！親の就労継続を促すことは収増の担保につながります。働く母の後ろ姿を見て育った子ども達も納税者となる一石二鳥の政策です。

【上田令子活動報告】 2015 8月

activities report 2015 9月

～世のため都のため人のため。 2015 10月

あいも変わらず東奔西走！～ 2015 11月

to be continued

児童養護は脱・施設！「温かい家庭を」

『新生児養子縁組』愛知方式の生みの親、矢萬田篤二氏を招き勉強会を開催。都は、新生児里親委託実質ゼロ。都道府県を超え超党派で連携を図り施設依存を改善していきます。



障がい者政治参加促進のシンポジウム「投票箱に来てほしい…」

車いすでの参加者の方からの印象的な一言でした。視覚障がい者のパネラーからは「女性同様障がい者ももっと議員に」とも。当事者の声こそ政策に活かさねばなりません。



待機児童解消にむけて「保育園増やして！」

16年続けている保育園申請前の講習会。江戸川区は区立園でゼロ歳児が未実施、毎年ママ達が不安そうな面持ちで多数参加。少しでも入園できるよう情報提供を続けています。



予算・決算勉強会「数字は語る」

議会の役割は多様ですが、当初予算と決算の審査・議決は税金の使途に関するものであり、議員にとって最重要業務。期数の多い議員から「数字を読む」技術を学ぶ機会が大切。

